

アメリカ南部におけるコースタル・リゾートの現状調査

研究第二部 主任研究員 河野 嘉仁

はじめに

本調査はアメリカ合衆国南部フロリダ州マイアミ、メキシコ合衆国キンタナ・ロー州カンクンにおいてコースタルリゾートの現状を、又、メキシコ合衆国メキシコシティ、コロンビア共和国ボゴタ市において、内陸部のウォーター・フロント・レクリエーションを調査したものである。本調査は昭和63年11月5日より同年11月20日まで行われ、計2ヶ所のマリン・リゾート地と2ヶ所のウォーター・フロント・レクリエーション地区（内1ヶ所は工事中）を視察調査した。

1. フロリダ、マイアミ地区

フロリダ州は北米東南部にあり面積は151,939km²で全米22位、日本の約4割の面積を持っている。マイアミはフロリダ州の南端に位置しており、年平均気温は24.1度、年降水量は1,199mmで、熱帯性の気候である。8、9月には大西洋やカリブ海で発生するハリケーンがこの地方を襲い時には大きな被害がでる。マイアミの周辺は南北に長い都市部を除くとほとんどが湿地や不毛地帯である。フロリダの温暖な気候は一年中、保養・観光客を集め、観光業は同州最大の収入源となっている。（3,000万人、110億ドル／年）

マイアミビーチはその中心地であり、ビスケーン湾と大西洋に挟まれたマイアミビーチ市は細長い砂州の上に作られたリゾート都市であり、大規模なホテル、レストラン、ナイトクラブが並んでいる。本ビーチは大西洋の荒波に少しづつ削りとられていることから、その海食に対してマイアミビーチの沖合より掘削した砂により、狭い所で幅50m広いところで幅70～80m、高さ1.5mで、延長約15kmにわたり養浜がされている。維持管理はマイアミ市当局により早朝、スクレーパーによる砂浜の整正、清掃、椰子の木への灌水等が行われ、砂浜の美化に努めている。

マイアミビーチ市と本土の間はビスケーン湾により静水域となっており、随所にレジャーボートやボートハウスを係留している。フロリダより更に南部はフロリダ・キーと呼ばれ（キーとは島の意味）最南端のキーウエスト迄240kmに渡り隆起したサンゴ礁と石灰岩の島々が続いている。かつて鉄道により結ばれていたが1935年のハリケーンにより破壊され、その後海上道路として現在に至っている。島々には浚渫によりマリーナが造られているとともに週末型や永住型の別荘が建並んでいる。

リゾート基地としてのマリーナは1ヶ所で大きく掘り込んで多数のボート・ヨットを収容し別荘は近隣に集まっているケースと内陸部に運河を掘り各戸の裏庭にボートが係留出来るようにしたものとの2種類に大きく分類出来る。（写真－1～7参照）

マリーナ配置パターン

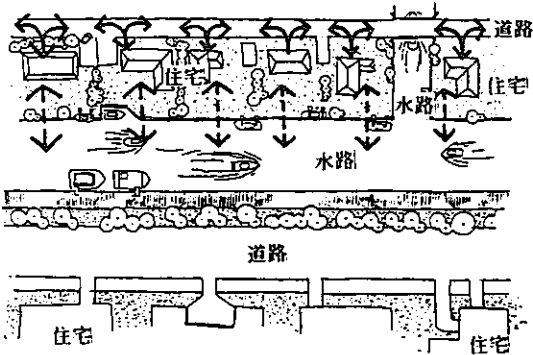


図-1 マイアミ市内の高級住宅地
 マイアミ市内においてはビスケーン湾に面した部分に高級住宅地が建並び、各々の庭が運河に面し、直接船を庭先に横付けできる。

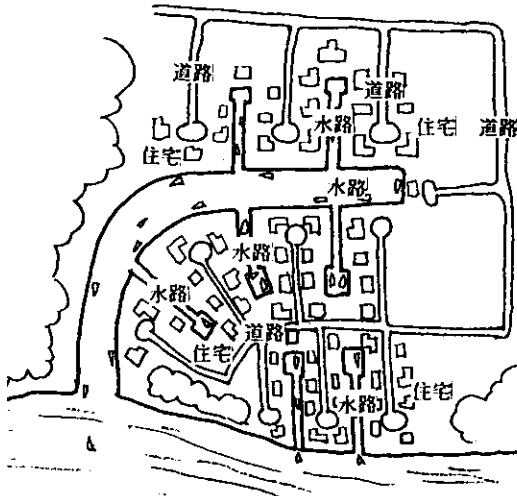


図-2 郊外型の掘込み型運河を自宅の裏庭に引込んだ例
 マイアミ郊外の石灰質の土地においては、新規の住宅地開発に伴い、運河とアクセス道路を櫛の目状に配し各戸の庭先から運河を通りカリブ海に抜けられるように配慮されている。

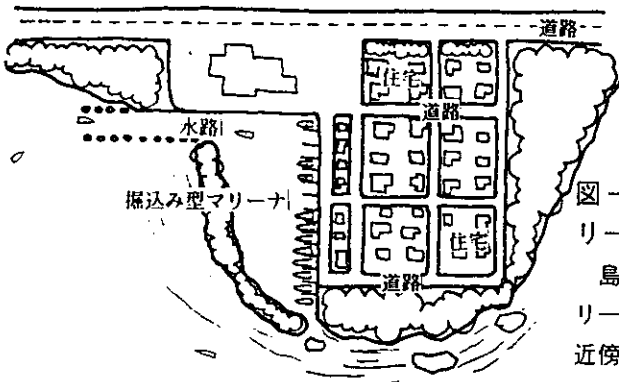


図-3 島嶼部における掘込み型マリーナ例
 島嶼部においては珊瑚礁の部分を掘込みマリーナを造っている。別荘群は一体となって近傍に配置されている。

2. メキシコ合衆国キンタナ・ロー州カンクン市

本地区が位置するユカタン半島はメキシコ合衆国の東部、メキシコ湾とカリブ海に突出した形をしている。カンクン（マヤ語で蛇の意味）はそのユカタン半島の先端にあり、年平均気温27.5度と熱帯の様相を呈している。1970年代、当時の大統領エチェベリアは、マイアミに対抗できうるようなリゾート基地開発の計画をたて、アメリカ東海岸より最短距離であり、白砂とエメラルド・グリーンのあるカンクンに目をつけ事業を開始した。一般に中南米におけるプロジェクトは経済的な事情も伴って遅延することが普通であるが、ここに関しては驚くべきスピードで進み、事業開始後10数年たった現在は一流ホテル、レストランが並ぶ一大リゾート基地となっている。カンクンの名前を世界的に広めるきっかけとなったのは1981年にカンクン・サミットが開かれてからである。

カンクンのリゾート基地は本土よりカリブ海に突出して約8kmに渡り伸びた砂州の上に造られている。本地区はホテル地区と呼ばれ7つのビーチにホテルが張付いている。メキシコにおいてはプライベートビーチをもつことが許可されないため、一流ホテルの砂浜もパブリックビーチとして一般の人も自由に入れる。ここにおける課題はカリブ海の手食によりビーチ自体がマイアミに比べ非常に狭いことである（約10～20m）。又、急激な建設ラッシュによるホテルの粗製濫造や基盤整備のため、外観はともかく内容が伴わないホテルが多く見受けられる。今後ホテル群の完成後、徐々に質の向上が図られると思われる。

（写真－8～13参照）

3. メキシコ合衆国メキシコシティー郊外ショチミルコ

メキシコシティーは標高2,300mの高地に位置し年平均気温15.1度、年降水量726mmである、メキシコ盆地の中に造られたこの都市は200万台もの自動車、製油所、昼夜絶えなく発着する飛行機等から出される排気ガスにより、世界でも指折りの大気汚染都市である。環境悪化は大気汚染だけでなく、内陸盆地ということで自然排水出来ないため、盆地中央のテスココ湖は塩水化している。

年間20億トンを越える水需要の内2/3を盆地の中で賄っているが、それは域内の河川・湧水からと古地下水の汲みあげで賄われている。生活用水の確保に苦勞している現況では公園の樹木にも十分に散水が出来ず市街地の緑は徐々に少なくなってきた。

市域南部のショチミルコー帯はかつてメキシコシティー帯が湿地帯であったなごりを残す運河地帯である。古くから伝わるチナンパという「浮き菜園」で知られている。このチナンパ地帯は、清澄な湧水に恵まれ、チランゴ達（首都の住民）に飲料水や蔬菜・花卉類を供給し、休日には船遊びの場を提供する水郷地帯であった。しかし現在では排水不良のため雨季には2ヶ月以上も異常水位が続くようになり、1977年には5,000haものチナンパ耕地が水没した。

さらに周辺部にある製紙工場の廃水、生活雑排水の流入により富栄養化し、とても清澄とはいえない状況である。

それでも休・祝日には都市部からレクリエーションを楽しむ家族連れやグループで賑わっており、水路には船のなかでマリアッチを演奏する楽団、飲料水、土産物、昼食、花束等々を売る者、記念写真を売る写真屋が、各々船を操りながら行楽客の船に近付き商売をしている等、まだメキシコシティーにおいては一級行楽地のひとつである。（写真-14～22参照）

4. コロンビア共和国ボゴタ市シモンボリーバル公園（工事中）

本公園が位置する南米コロンビアの首都ボゴタ市は標高2,550m、平均気温14.5度、年降水量1,059mmで北緯5度に位置しながらも高地ということから1年を通じて温暖な気候である。首都ボゴタからはカリブ沿岸、太平洋沿岸まで各々1,000km離れ、一般庶民はなかなか海水浴に行ける機会はなく、それにかわり首都近郊の緑地や湖へレクリエーションに出掛けるケースが多い。首都やその周辺は緑地が多いものの、そのほとんどがフィンカと呼ばれる農場や会員制のクラブで、庶民が気軽に楽しめる公園は少なく、首都において手軽なレクリエーションが楽しめる公園が求められている。

本公園はこのような要求に基づき、首都中心部より約5kmの地点にある国有地を活用して110haの国営公園を計画し、1979年日本の協力により公園の設計が行われた。その後当該国プロジェクトチームにより実施設計と平行しながら、1981年より工事を行っている、本公園は将来、周辺の既存遊園地、植物園、運動競技場を取込んだ形で一体化し、全体で350haの一大都市公園とする予定である。導入施設は約7haの人工湖、約20haの築山群、1haのパレード広場、約30haの大緑地、その他博物館、民芸品館、工業センター、ホテル、レストラン群等を計画している。

当初のスケジュールでは、10年計画で、1990年には完成の予定であったが、コロンビア経済の悪化による財政再建策などから、公園緑地関連の予算は大幅に削減され、工事開始から3年たった1984年には早くも工期を1992年へと2年延長している。工事自体は公共事業運輸省の直轄部分とv i c o n社という民間業者が一体となり進めており、v i c o n社が造成や配管等の基盤整備を行い、直轄では植栽工事を中心として工事を行っている。年度当初(1月)に年間予算を認定して貰い工事に入るが、その予算が100%つくということは無く、暫定予算を組み業者と随契を行う。予算を消化すると次の予算がつくまでは、待ちということになり、その間は直轄工事だけが行われるということになる。次期の予算がつく時期は未定のことが多く、その間は工事が遅れるということになる。1987年7月にローマ法王が当市を訪れ、当該公園にてミサを行った。その準備の為に邦貨にして約3億円が付き、概ねの造成工事は終了した。その後大きな予算はつかず以前と同様にストップアンドゴーの状態を繰り返している。調査に訪れた、1988年11月にはゴーの状態であったが、同月末には予算が終了するとのことであり。施設計画の見直しと、施設工事にかかる測量を行っていた。公園全体は約7haの人工湖と、パレード広場、築山群やそこへの植栽、公園を巡る延長約3kmのカナルの掘削迄が行われていた。工事担当責任者によると1992年というのはとても無理で、21世紀へ向けての公園とした方がよいと言うことであった。(写真-23~25参照)

視察スケジュール

	月/日	発着日/滞在地名	便名	時 間	宿 泊 地
1	昭和63年 11月 5日	成田発 ロスアンゼルス 同地発 マイアミ着 (フロリダ半島)	MH92 EA23	17:15 発 09:30 着 13:20 発 21:09 着	マイアミ泊
2	6日	同地発キーウエストへ	朝		コースタルリゾート 視察同地泊
3	7日	同地発マイアミへ	昼		
4	8日	マイアミ周辺視察	終日		同地泊
5	9日	同地発カンクンへ	MX 308	12:20 発 12:50 着	カンクン泊
6	10日	同地視察			同地泊
7	11日	カンクンより メキシコシティへ	MX 328	11:40 発 13:40 着	メキシコシティ泊
8 ~ 9	12日 ~ 13日	メキシコシティ 同地視察		タクシー バス他	同地泊
10	14日	メキシコシティ よりマイアミへ マイアミより ボゴタへ	MX 301 EA 518	07:40 発 13:40 着 17:40 発 21:03 着	ボゴタ泊
11 ~ 13	15日 ~ 17日	ボゴタ周辺視察		バス他	ボゴタ泊
14	18日	同地発 ロスアンゼルス	EA 505	10:00 発 19:43 着	ロスアンゼルス泊
15	19日	同地発東京へ	MH93	11:30 発	日付け変更線通過 (機内泊)
16	20日	成田着		15:55 着	

視察調査位置





写真一 マイアミビーチ上空よりリゾート基地を望む。右側はカリブ海で、左側運河のように見えるのはビスケーン湾。両者の間にはホテル群が並び、ビスケーン湾の内陸側には高級別荘が並ぶ。



写真二 キーウエスト方面には珊瑚の島をリゾート基地として整備している所が多く、掘込み型のマリーナが多く見られる。



写真－ 3

写真－ 3、 4

つい最近養浜されたばかりの砂浜にはごみ一つなく、青い海と白い砂が美しい。



写真－ 4



写真－5

奥は養浜された箇所。手前は既往の砂浜。

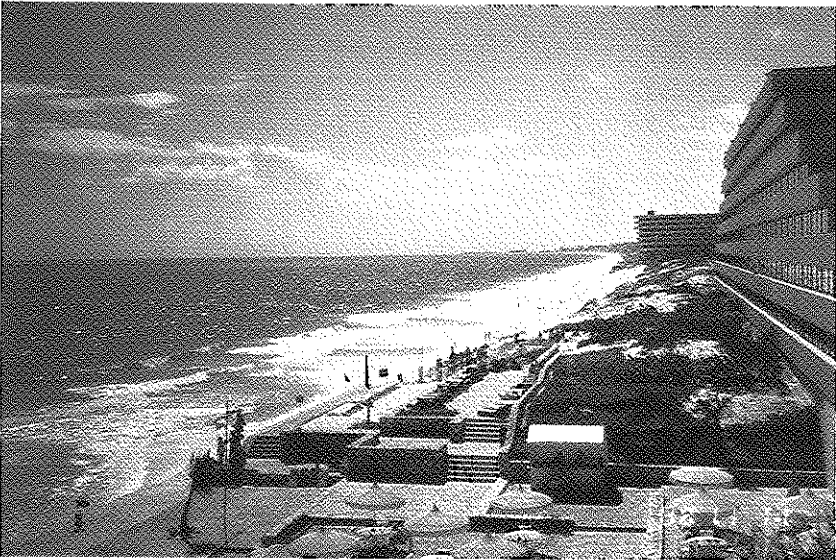


写真－6

砂浜と陸域の間をボードウォークが通っている。



写真一 7
緊急車両の通路



写真一 8 カンクンの砂浜
海食により砂浜は非常に狭く海岸施設のすぐ側まで海が迫っている。

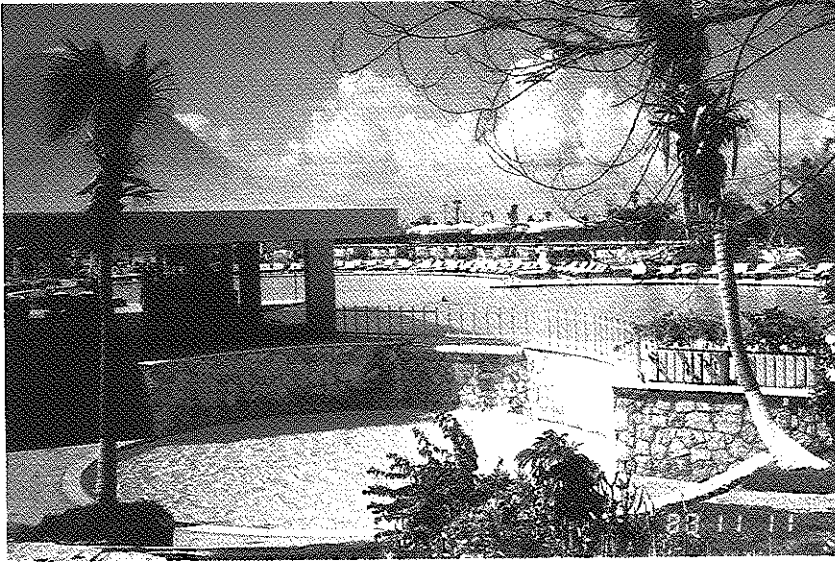


写真-9 シェラトンホテルの中庭



写真-10 カンクンの夕日



写真-11 ホテルに隣接して砂浜がある。
もっと砂浜が広いとマイアミにも
負けないリゾート基地になるだろ
う。

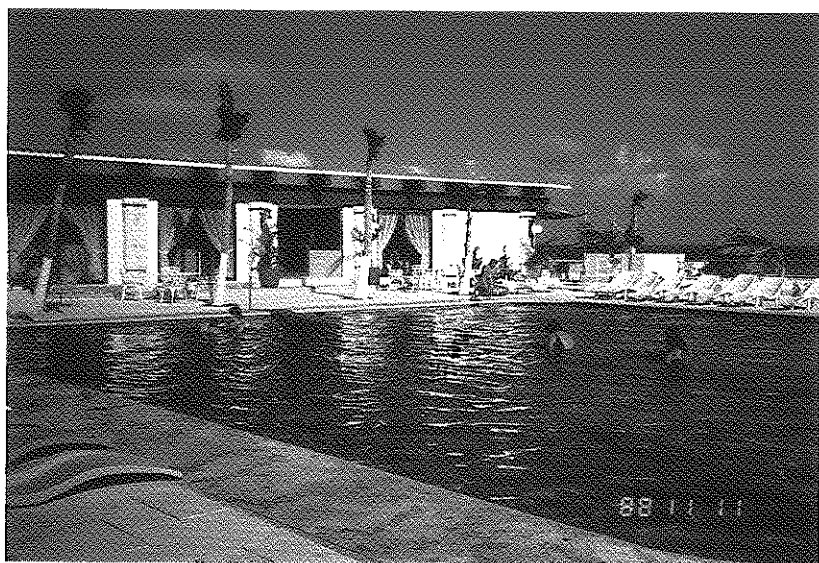


写真-12 ホテルでは海を望みながらプー
ルで日光浴が出来る。



写真-13 カンクン、ホテル地区の夕暮れ。



写真-14 メキシコ中西部にあるメスカルティラン潟。かつてメキシコシティーもこのように湿地帯であり、ショチミルコはこの名を残している。

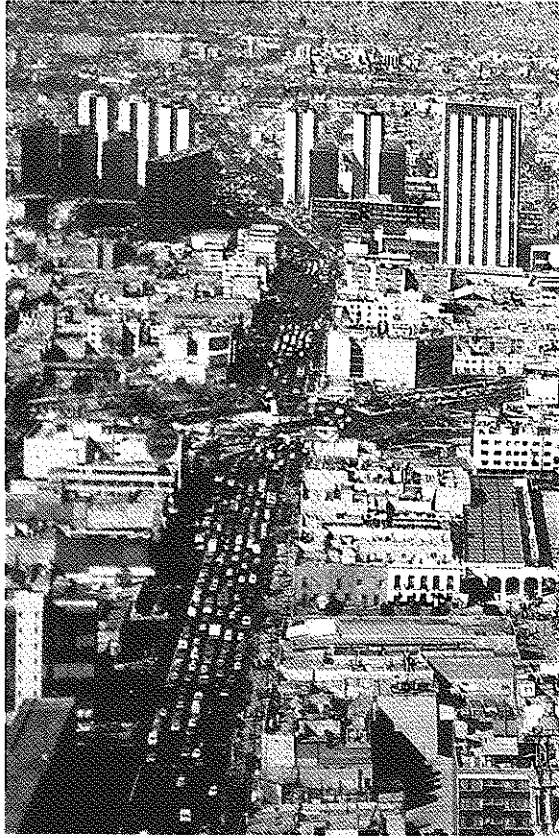


写真-15 メキシコシティ市街地。1,500万人を越える大都会で世界でも有数の公害都市である。



写真-16 ショチミルコの水郷地帯。毎週日曜日になると家族連れやグループでの行楽客で賑わう。



写真-17 何キロメートルも続く運河をいくつものボートがゆったりと行きかう。



写真-18 楽隊をのせたボートはリクエストによりお客のボートに寄添いながら演奏を行う。



写真-19 小船をチャーター出来ない人々は乗合の船にのって遊覧する。
この程度の船でもモーターはついておらず、2名の漕手により進む。

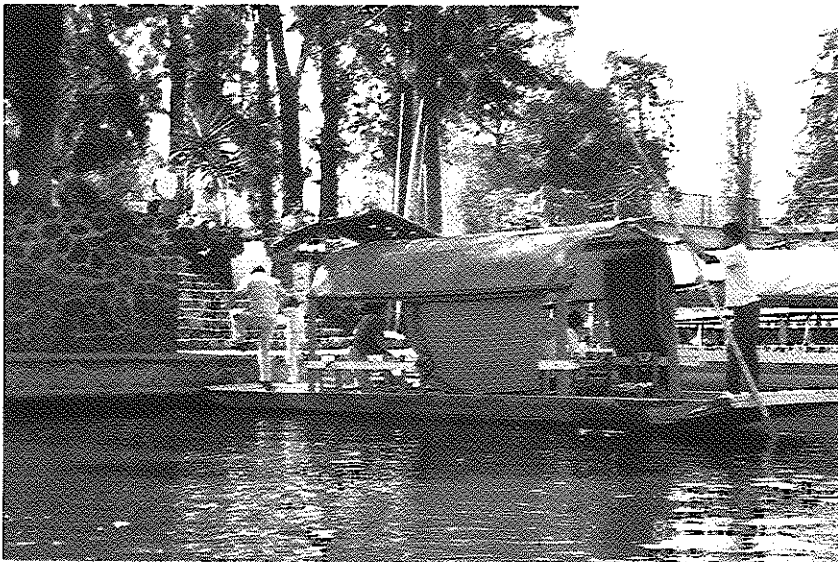


写真-20 所々に休憩が出来る広場があり、行楽客はおりて散策をする。



写真-21

写真-21、22 行楽客と物売りの船で広い
運河も狭いくらいに感じる。



写真-22

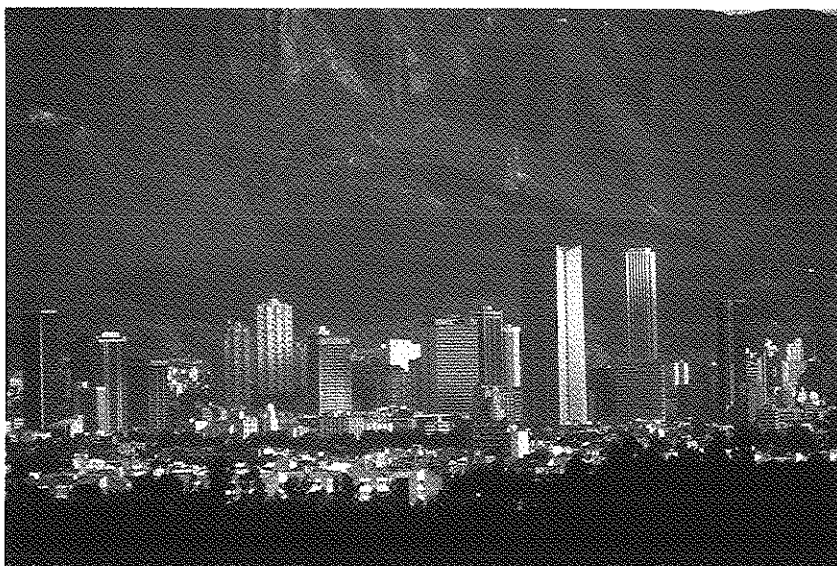


写真-23 ボゴタ中心市街地。標高2,500
mを越える台地に位置する。



写真-24 公園建設地より中心市街地を望
む。

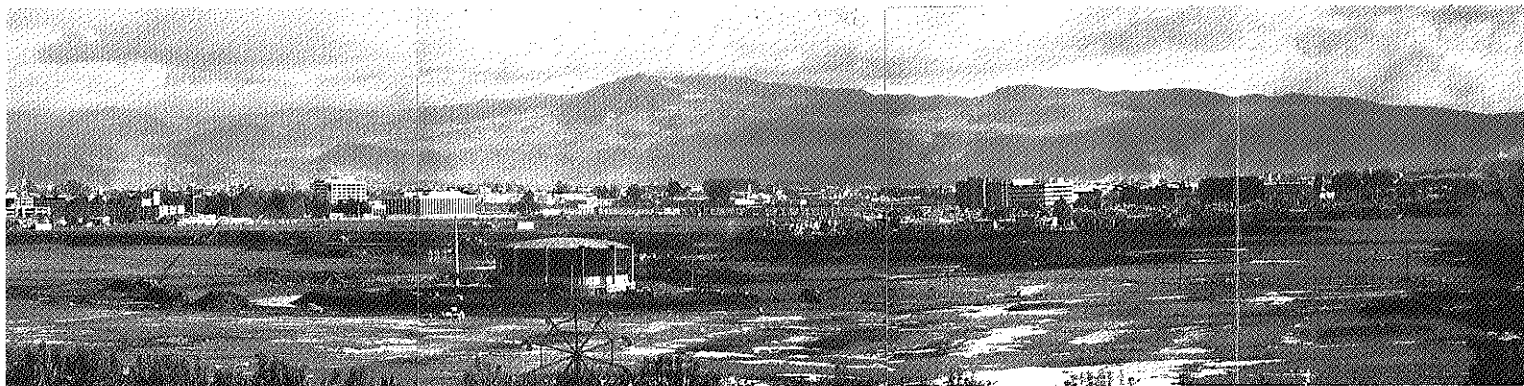


写真-25 シモンポリール公園建設地全景。
中央部円形の礼拝堂周辺に人工湖を掘削中である。
右手奥の黒土部分が築山である。